

エコな縄文

狩猟・採集・漁労を生業とした人々は、環境に適応した様々な道具を発展させ、採(捕)り方や調理方法を工夫し、自然の恵みを食料としてだけでなく、暮らしの道具に加工するなど、余すところなくすみずみまで利用していました。

鹿の骨などで作られた釣り針、銚先、ペンダントなど
〔入江貝塚〕



津軽海峡を挟んだ交易・交流

津軽海峡という「しょっぱい川」を挟み、黒曜石や貝製品などの交易品が運ばれるなど、交易・交流が活発に行われました。



ベンケイガイ製ブレスレット〔田小屋野貝塚〕
青森県立郷土館蔵



北海道産黒曜石の石器
〔三内丸山遺跡〕

縄文の技

漆製品は、土器やかご、弓のほか、櫛や耳飾りなどの装飾品も作られ、顔料が入った土器や漆を漉した布も出土しています。漆の扱いは難しいため、専門の職人がいた可能性もあります。世界最古の漆製品は函館市垣ノ島遺跡から出土しています。



籃胎漆器〔是川石器時代遺跡〕

豊かなこころ

祭祀道具は、土偶をはじめ、石棒や岩版など、素材や形状が様々なものが出土しています。豊穡や狩猟の安全を願ったり、供養や威信のために使われたりしたものと考えられています。子どもの手形や足形が押された土版は、子を思う親のこころを表しているのかもしれませんが。



三角形岩版〔小牧野遺跡〕



クジラの骨で作られた刀〔北黄金貝塚〕
写真提供：伊達市噴火湾文化研究所



足形付土版〔垣ノ島遺跡〕